申請日		登録日	2002/7/22(2017/05/11)
腫瘍名	膵臓	申請医師	建持　岳史

通常の投与期間	ヶ月、　　年、PDもしくは有害事象出現までの無期限、その他（

投与スケジュール

レジメン名

1回に要する時間：　　時間　4 5

膵臓　GEM

クールの概要

4週が１クール

第１・2・3週目に投与4週目休薬

1クール　　2クール

1　8　15　22　1　(DAY)

	種別	薬剤	用量	用法	時間	1		8		15				22			
①	メイン	生食	100mL	点滴	開始から終了まで	↓		↓		↓				↓			
②	側管1	デキサート 生食	6.6mg 50mL	点滴	15分	↓		↓		↓				↓			
③	側管2	ゲムシタビン 生食	1000mg/㎡ 100mL	点滴	30分	↓		↓		↓				↓			

注意事項

参考文献

申請日		登録日	2008/7/8(更新2017/05/11)
腫瘍名	膵臓	申請医師	建持　岳史

通常の投与期間	ヶ月、　　年、PDもしくは有害事象出現までの無期限、その他（

投与スケジュール

レジメン名

1回に要する時間：　　時間　4

膵臓　GEM+S1

クールの概要

3週間が1クール

第1日、8日目に投与、第15日は休薬

1クール　　2クール

1　8　15　22　(DAY)

	種別	薬剤	用量	用法	時間	1			8					22			
①	メイン	生食	100mL	点滴	開始から終了まで	↓			↓					↓			
②	側管1	ﾃﾞｷｻｰﾄ ﾊﾟﾛﾉｾﾄﾛﾝ 生食	9.9mg 0.75mg 50mL	点滴	15分	↓			↓					↓			
③	側管2	ゲムシタビン 生食	1000mg/㎡ 100mL	点滴	30分	↓			↓					↓			
		TS1	80～120mg /日	内服	DAY1～14まで 内服												

注意事項

S1標準投与量	1.25㎡未
満：80mg/日	1.25～1.5未満：
100mg/日	1.5㎡以上：120
mg/日	

溶解後は15～30℃で保存し24時間以内に使用

参考文献

申請日		登録日	2017年7月19日
腫瘍名	膵臓	申請医師	長島　敦

通常の投与期間	ヶ月、　　年、PDもしくは有害事象出現までの無期限、その他（

投与スケジュール

レジメン名

1回に要する時間：　　時間　80

膵臓　nabPTX+GEM

クールの概要

4週が１クール

第１・2・3週目に投与4週目休薬

1クール　　2クール

1　8　15　22　1　(DAY)

	種別	薬剤	用量	用法	時間	1		8		15				22			
①	メイン	生食	100mL	点滴	開始から終了まで	↓		↓		↓				↓			
②	側管1	ｶｲﾄﾘﾙﾊﾞｯｸ ﾃﾞｶﾄﾞﾛﾝ	3mg 9.9mg	点滴	15分	↓		↓		↓				↓			
③	側管2	nabPTX 生食	125mg/㎡ 100mL	点滴	30分	↓		↓		↓				↓			
④	側管3	生食	50mL	点滴	5分	↓		↓		↓				↓			
⑤	側管4	ゲムシタビン 生食	1000mg/㎡ 100mL	点滴	30分	↓		↓		↓				↓			

注意事項

nabPTXは特定生物由来製品に該当するため、施用記録の保管は特定生物由来製品に準ずる。
nabPTXは過敏症防止のための前投薬は不要、アルコールは含まれていない。
nabPTXはインラインフィルターは使用しない
nabPTXは1バイアル当たり生理食塩水20ｍＬで溶解し、空のボトルに注入する。　希釈はしないこと。
nabPTXは調整後速やかに使用するかまたは箱に戻し冷蔵庫（2～8°C）に遮光保存して8時間以内に使用すること
ゲムシタビンは冷蔵庫に保存すると結晶が析出することがあるので、室温（15～30°C）で保存し、24時間以内に使

参考文献

アブラキサン点滴静注用　医薬品インタビューフォーム
ジェムザール注射用　医薬品インタビューフォーム
Daniel D,et al:N Engl J Med369:1691-703,2013

申請日	2020/11/10

登録日	2020/11/1

腫瘍名	膵臓がん

申請医師	衛藤　英一

通常の投与期間	ヶ月、　　年、PDもしくは有害事象出現までの無期限、その他（

投与スケジュール

レジメン名

1回に要する時間：　50時間　15分

膵臓　NAPOLI-1

クールの概要

2週間で1クール

第1日目に投与

1クール　　2クール

1　2　3　　15　16　17　(day)

	種別	薬剤	用量	用法	時間	1								15			
①	メイン	生食	100mL	点滴	開始から了時まで	↓								↓			
②	側管1	パロノセトロン デキサート 生食	0.75mg 9.9mg 50mL	点滴	15分	↓								↓			
③	側管2	nal-IRI 生食	70mg/m2 500mL	点滴	90分	↓								↓			
④	側管3	レボホリナート 生食	200mg/m2 250mL	点滴	120分	↓								↓			
⑤	メイン	フルオロウラシル 生食 ヘパリン	2400mg/m2 2000単位	シュアフューザー使用	46時間												

注意事項

治癒切除不能な膵癌2次治療以降

UGT1A1遺伝子多型の測定を実施する　2つの遺伝子多型（UGT1A1*6、UGT1A1*28）について、いずれかをホモ接合体（UGT1A1*6／*6、UGT1A1*28／*28）又はいずれもヘテロ接合体（UGT1A1*6／*28）としてもつ患者はオニバイドの開始用量を50mg/m2とする。　末梢静脈から持続注の場合は、5%ブドウ糖液500mLにフルオロウラシル1200mg/㎡を溶解し、23時間かけて投与し、2回繰り返す。

海外第Ⅱ相NAPOLI-1試験　Ｌａｎｃｅｔ　2016；387：545-57

国内第Ⅱ相臨床試験（331501試験）

オニバイド適正使用ガイド

オニバイド添付文書